

Rotary  国際ロータリー
第2670地区

美馬
ロータリー
クラブ

週報




美馬
ロータリークラブ
ウェブサイト
<http://www.mimarotaryclub.com>

2021-2022 年度 第29回 例会プログラム

- 例 会 場 サンコーカルチャーセンター
- 開会点鐘 19時
- 四つのテスト/ロータリーソング「我等の生業」
- 内 容 会長の時間/幹事報告/委員会報告/卓話

出席報告

会員数	出席者数	うちリモート出席	うちメーキャップ	出席率
25	19	(2)	(0)	76%

会長の時間

廣澤誠治 (Seiji Hiroosawa)



幸田露伴が発見した成功者の法則

(上智大学名誉教授 渡部昇一さんの本より)

本日の徳島県のコロナ感染者は117名、つるぎ町11名、美馬市が11名だったと思います。皆さん気をつけて参りましょう。

今日は上智大学名誉教授の渡部昇一さんの本の中から「幸田露伴が発見した成功者の法則」をご紹介します。

幸田露伴は人生における運を大切に考えています。運というと他に依存した安易で卑俗な態度の様に思われがちです。だが、露伴の言う運はそんなものではありません。その逆です。

露伴が人生における成功者と失敗者を観察し、ひとつの法則を発見します。露伴は言います。「大きな成功を遂げた人は、失敗を人のせいにするのではなく、自分のせいにするという傾向が強い」物事がうまくいかなかったり、失敗してしまったとき、人のせいになれば自分は楽です。「あいつがこうしなかったから、うまくいかなかったのだ」、「あれがこうなっていなかったから失敗したのだ」、物事をこのように捉えていれば、自分が傷つくことはありません。悪いのは他であって、自分ではないのだから楽なものです。

だが、こういう態度では、物事はそこで終わってしまっ、そこから得たり学んだりするものは何もありません。失敗や不運の因を自分に引き寄せて捉える人は、辛い思いをするし、苦しみもします。しかし、同時に、あれはああでなく、こうすればよかったという反省の思慮を持つことにもなります。それが進歩であり、前進であり、向上というものです。失敗や不運を自分に引き寄せて考えることを続けた人間と、他のせいにして過ごすことを繰り返してきた人間とでは、かなりの確率で運の良さが全然違ってくるということです。

露伴はこのことを、運命を引き寄せる二本の紐に

例えて述べています。一本はザラザラゴツゴツした針金のような紐で、それを引くと掌は切れ、指は傷つき、血が滲みます。それでも引き続けると、大きな運がやってきます。しかし、手触りが絹のような心地よい紐を引っ張っていると、引き寄せられてくるのは不運であるというわけです。

幸運不運は気まぐれや偶然なのではありません。自分の在り方で引き寄せるものなのです。

「失敗したら必ず自分のせいにせよ」

露伴の説くシンプルなこの一言は、人生を後悔しないための何よりも要訣です。

幹事報告 森廣一 幹事

- ✓ 鴨島、脇町、阿波池田 RC から週報が到着しています。
- ✓ 脇町ロータリーの移動会員で新入会員が3名ありました。我がクラブでも、お友達を増やすためにご紹介いただくと幸いです。
- ✓ 2022-2023 年度、田村さんの会長年度の組織表を改めて回覧しております。ご覧いただいて来期へのご協力をよろしく申し上げます。

委員会報告

ゴルフ部長代理として田村会長エレクトより

- ✓ 5クラブ親善ゴルフ大会の賞状が届きましたのでお配りします。
 - ✓ 28位 B B 廣澤誠治会長
19位 田村光男会長エレクト
14位 谷俊彦会員
13位 B B 伊良原猛会員
6位 美馬敏彦会員
3位 澤田篤也会員
- 美馬 RC は、団体で3位となりました。

卓話

矢野太一会員 職業奉仕について



私が奉仕という言葉に初めて触れたのは、たしか小学校3年の時の6時間目「奉仕の時間」というのができまして、小学生のことですから、学校の外へ出て道路を掃いたり、花を植えたり、ゴミを拾ったり、ということなんですけども、その時から奉仕というのは、無償で皆さんのお役に立てる、喜んで頂けることをすることだと認識しておりました。

そして、ロータリークラブに入って、改めてまた「奉仕」という言葉がクローズアップされるようになりました。特に分かりにくかったのが、私の理解が浅いということなんですけど、「職業奉仕」という言葉だったんです。人様からお金をもらって仕事するのに奉仕でも何でも無い、当たり前だろうというような考え方でおりました。

私も仕事をしていると、当然普通に仕事をしてそれでも何かえらい喜んでくれる人が中にはいます。

私にすれば、当然のことなんですけども、いろんな物をくれたり、しまいには食事に招待されたり、仕事として当然のことをしているだけなんですけど、そういう喜び方をしてくれるのを見て、なんとなくこれって奉仕をしているんだな、そんな感覚になりました。

そして最近、教員をされていた人の仕事をする機会があり、自分の出身地や、自分の年齢などを話す



SERVICE TO CHANGE LIVES

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



美馬ロータリー
クラブ週報

うち、こういう校長先生がいませんでしたか？という話になりました。仮に M 先生とお呼びしますが、その方は「実は私、M 先生の親族の者です」と何か済まなそうな顔で言われました。

私が小学生の頃、その校長先生はそれはもう始末な先生でした。私が小学 2 年生の時に赴任してきて、卒業する時もその校長先生でした。小学 1 年生の時はとてもゆるい校長先生で、朝の 10 時、11 時ぐらいに弁当箱をさげて、どうでも良いような感じでやって来るような人だったんです。けれども、その方は 10 キロ以上家が離れていて、毎日雨が降ろうが雪が降ろうが、自転車を漕いで学校に通われていました。校長先生ですから、車くらい乗れば良いのにと思ったんですけども、それはもう徹底しておりました。何に事も徹底していて、質素儉約、質実剛健、悪く言えばケチと近所の方に言われていた様ですが、それを徹底して僕らは仕込まれました。その上また綺麗好きで、木造の校舎をいきなりバケツで水を流して、タワシでこすられて、それを吹き上げて、ワックスを塗って、学校がピカピカになりました。それで、あの周りに花を植えろと言うので、花をいっぱい植えて、それで全国の花いっぱいコンクールの 1 位になりました。また、朝会の時、卒業式の時には身動きひとつすることは許されず、まるで軍隊のようでした。それで当時、私は当然子供ですから、卒業する時にはもう清々して、やっと解放されたという気持ちになったのを覚えています。

それから年月が経ち、子供を持つ歳になって周りの当時小学生だった人達と話しをする機会があると、校長先生の話になります。とにかく強烈な人でしたから、当時を思い出すと、「小学校の時は息苦しくて嫌でたまらなかった。でも、今となってはすごく感謝している」とそういう話になります。とにかく、物を捨てることが許せないし、食べ残すとい

うことも許せない、というのは僕らの周りの人間の共通点になっていて、その先生の教えがもう本当に染み付いているんです。ですから、校長先生の悪口を言う人は一人もいませんでした。もし今の時代だったら、多分校長先生は吊上げられるような感じだったと思うんです。けれども皆さん一様に感謝しているんです。

昨日、教育委員会の委員をさせて頂いている関係で中学校の入学式に行ってきたのですが、その校長先生が一つ上の近所の先輩で、入学式が終わって、あの話をしたら、私は尊敬しているとまで言っていました。そこで、最近仕事をした M 校長先生の親族の方にその話をしました。そうしますと、何か済まなさそうな顔をして、嫌だったろう？と言いたげな表情をされたのですが、「いえいえ、そんなことはありません。私はとても感謝しています。並べて私達の近所の同級生とか、あの近い年代の方が言ってますよ」とお伝えすると大変喜ばれました。その方に次に会った時、息子さんが和歌山に居るらしく、電話でそのことを伝えたら、大変に喜んでいと話してくださいました。

それでつくづく考えますと、その校長先生は本当に自分の教育を徹底して、それは究極の職業奉仕でないかと私は思いました。

校長先生は残念ながら 5、6 年前にお亡くなりになったのですが、教師や教育って素晴らしい仕事で究極の職業奉仕をされたような思っています。

私もそういう仕事をしたいとつくづく思います。

Zoom 出席者（2名）

東谷尚登会員、西谷明彦会員

欠席者（6名）

伊庭雅俊会員、田中義美会員、辻貴博会員、戸島健治会員
林秀樹会員、山内浩司会員



SERVICE TO CHANGE LIVES

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



美馬ロータリー
クラブ週報